

# 朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

令和3年1月6日(水)

1月号 児童数 924名

TEL:048-461-0410



【学校教育目標】 「心豊かに自ら学ぶたくましい人間の育成」

思いやりのある子 自ら学ぶ子 元気な子

【めざす学校像】 「学ぶ喜びと感動のある学校」

【朝霞六小の合言葉】 ～花あり 歌あり 笑顔あり～



## 捲土重来、乗り越える力

校長 木村 直美

新型コロナウイルスの感染者が増大し、「真剣勝負の年末年始」として、新年を迎えました。依然として感染拡大の脅威は衰えず、近日中に緊急事態宣言が発令されそうな状況です。どんな状況にあっても、ぶれることなく、子供にとって何がベストかを判断基準にして教育活動を進めてまいります。

第97回箱根駅伝が、沿道での声援の自粛を呼びかけながら開催されました。選手たちからは、開催に向けた関係者の尽力に対する感謝の思いが発せられました。今年は、往路優勝が創価大学、復路優勝が青山学院大学、総合優勝が駒澤大学と、箱根駅伝の醍醐味が発揮された結果となりました。生中継の中で、何度も使われた言葉があります。

それは、故事成語である「捲土重来(けんどちょうらい)」という言葉です。一度破れたり失敗したりした者が、再び勢いを盛り返して巻き返すことのとえです。捲土とは土煙のことで、直訳すれば「土煙を巻き上げるようにもう一度チャレンジせよ」という元気の出る表現です。

総合優勝した駒澤大学は13年ぶりの総合優勝で、その間、かつての常勝軍団もシード権を失うことも含め、優勝から遠ざかり、悔しい思いが続きました。まさに駒澤大学の走りは「捲土重来」という表現がぴったりだったでしょう。また、往路でまさかの12位に沈んだ優勝候補の青山学院大学は、一晩で、陣営を立て直し、全員一丸となって、復路優勝を目標に臨みました。それこそ、短期間での「捲土重来」と言えます。往路を制し、総合優勝まであと一歩だった創価大学も「捲土重来」の意気将来年の箱根に向かってくるでしょう。

「捲土重来」、あきらめたらそこで終わりなのです(「スラムダンク」の中で安西先生の言葉としても使われましたが)。あきらめず夢を追いかけた者が、あきらめず努力をした者だけが、身をもって「捲土重来」を知ることができます。勢いを盛り返すということは簡単なことではありません。青山学院大学の原監督が総合4位という成績に「次につながる敗戦」と何度も言いましたが、破れたり失敗したりしても、その破れ方、失敗の受け止め方次第で、次につながるということがあるのです。9日(土)には全国高校ラグビーの決勝戦が行われます。この冬、高校ラグビーの熱戦の様子を伝えた番組のキャッチコピーに「乗り越えるチカラ」という語がありました。乗り越える力、まさに今、このときだと思えます。

令和2年度は4月の緊急事態宣言による臨時休業から始まり、状況が刻々と変化し、3月の年度末まで子供たちには苦しい時期が続きます。激動の情勢の中で子供たちは困難や不安に立ち向かわなくてはなりません。でも、心の持ちようで苦しい状況はきっと乗り越えられます。それを支え、導いていくのが周囲の大人の役目です。大変な状況の時こそ、私たちはその姿を子供たちに見せながら力を合わせて乗り越えていかなくてはなりません。引き続き、本校の教育活動へのご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。